



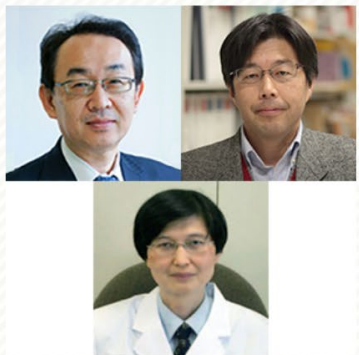
放射線に関するリスク理解の深化と災害時対応および廃棄物に関する基盤研究

令和5年度における活動実績・成果の概要 (1/2)

■ 東北大学MOOC（大規模公開オンライン講座）サイエンスシリーズ「放射線安全社会入門ーリスクの知見を暮らしに」を開講(期間: 2024年1月17日から同年3月19日, 内容: 放射線や放射性物質の基礎に加え, 理学, 医学, 工学を専門とする教員個々の放射線に関する認識を紹介, 受講者数: 897名(4年間で延べ3,844人))

開講期間においては、受講者からの質問等に逐次応えるとともに、閉講にあたり講師からのメッセージを受講者に伝えた。また同講座の英語化を進めた。

■ 昨年度に引き続き、上述の講座を学内の全学教育科目先進科目-カレントトピックス科目(全学部の1年生を対象, 0.5単位)としてISTU（本学のDigital Campus システム）を利用して開講.今年度は216名の履修(文系43名、理系173名)であった. 今後、学生による講義選択の状況も把握していく.



東北大学サイエンスシリーズ第5弾

「放射線安全社会入門～リスクの知見を暮らしに～」

講師

[工学研究科] 新堀 雄一 教授

[理学研究科] 田村 裕和 教授

[医学系研究科] 細井 義夫 教授

開講日: 2024年1月17日(水)

募集開始日: 2023年10月18日(水)



MOOCコンテンツ: 目的, 第1週「放射線の基礎を学ぶ」, 第2週「放射線と社会」, 第3週「医学と放射線」, 第4週「地球科学と放射性廃棄物」

(第1週、第2週を理学研究科 田村裕和教授, 第3週を医学系研究科 細井義夫教授, 目的と第4週を工学研究科 新堀雄一教授が担当)

学内講師陣と講義の様子(右下)



TOHOKU
UNIVERSITY



放射線に関するリスク理解の深化と災害時対応および廃棄物に関する基盤研究

令和5年度における活動実績・成果の概要 (2/2)

■ 福島での現地研修を含む実習プログラムの開発

前述のISTU授業を受講した学部生の中から希望者12名を対象に、以下の実習プログラムのリハーサルを実施した。まず7～8月に学内でオリエンテーションと放射線測定の前実習を行い、9月に大阪大学が他大学有志とともに実施している「福島浜通り環境放射線研修」に参加させた。福島研修には東北大教員3名(田村、小池、金田) および大学院生1名(TAとして)も参加し、研修の内容と参加した東北大学生の反応を確認したうえで、次年度の実習プログラムを確定した。

次年度から、ISTU授業と本実習プログラムとを合わせて2単位の新たなカレントトピックス科目として実施する方向で調整を進めた。

■ 第8回C4セミナーの開催 (本セミナーは、学外の研究者からご講演を頂き、意見交換を通じて、参加者の各々持つ放射線に関する相場観の共有に繋げることを目的としている。これら相場観は、前述の講座等の見直しに反映していく)

日時：2023年12月18日(月) 16:30-18:00 (28名出席)

座長：東北大学大学院工学研究科 量子エネルギー工学専攻
千田太詩 准教授

講演者：日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター
飯島和毅氏

演題：福島第一原子力発電所事故後の環境回復および廃棄物処理処分



MOOC講義に関連する福島での研修を含む実習プログラムの検討

